

農業の本気 秋田の元気

『ふるさと秋田農林水産ビジョン』を踏まえた提言」を知事に手渡す

農業特別委員会がまとめ4月の常任幹事会で承認された「農業の本気 秋田の元気 『ふるさと秋田農林水産ビジョン』を踏まえた提言」を5月20日、佐竹敬久知事に提出した。担当理事でもある那波三郎右衛門代表幹事と農業特別委員会の白石光弘副委員長が知事室を訪れ、直接手渡した。

この後、県議会を訪れ議会事務局長に全議員分を手渡したほか、県内報道機関と全市町村長、それに秋田県農業協同組合中央会長にも郵送で配布した。

那波代表幹事は佐竹知事に手渡す際「県の担当者はじめ農家からも意見をうかがい、資料を集め、議論を重ねてまとめた。われわれは秋田県農業の応援団。どんな応援ができるかに力点をおいた。同友会には加工と販売の専門家がいる。いつでも相談に応じたい」と説明した。

これに対して知事は「農家だけでは売れるものを作るのは難しい。2次、3次産業の目が加わって全国に通用する食べものができる。提言を十分検討して、参考にしたい」と述べた。そのうえで、秋田ブランドを確立するには十分な量の安定供給や、大消費地でどんな農産物がどのような調理方法で食べられているか研究する必要性などを強調した。

農業特別委員会は昨年8月に委員13人で初会合を開催。第4回には県農林水産部の担当者らを招いて県農政のビジョンについて学んだほか、第5回には農産物加工をしている農家や畜産農家、農事組合法人代表者らにヒアリングも行った。